



水に親しみ水から学ぶ

水産科は、昭和47年に県内唯一の学科として開設されました。水産・海洋系の学科を設置する高校は、全国に47校ありますが、淡水魚を専門とするのは本校だけです。本校の水産科はその特色を生かして様々な取り組みを行っています。その一部を紹介します。

水産科ではこれまでに全国の水産高校で初という成果をいくつもあげてきました。日本ナマズやホンモロコの養殖技術の確立、魚醬やキャビアの生産、ウナギの人工ふ化成功などは大きな話題になりました。また環境省と連携した天然記念物ミヤコタナゴの保護活動やコクチバスなど外来種の駆除等にも取り組んでいます。これらは、生徒が2年生・3年生で取り組む「課題研究」の成果です。「課題研究」は、生徒が自分の興味や関心のあるテーマについて毎週じっくり取り組む活動です。その成果は、『校内生徒研究発表会』で発表し、優秀な研究は『関東・東海地区生徒研究発表会』に参加します。昨年度は『関東・東海地区生徒研究発表会』でも最優秀に輝き、初めて全国大会に出場しました。今年も先日の『関東・東海地区生徒研究発表会』で優秀賞を獲得し、2年連続で全国大会に出場します。

こうした取り組みのほかに、那珂川町の様々なイベントで水産加工品（魚醬、缶詰、甘露煮など）を販売したり、カヌーで那珂川を川下りしたり、茨城県の海で磯調査や海洋実習をしたりといった水産科独自の活動がたくさんあります。

水産科生徒の進路は、大学や専門学校への進学が約1/3、県外の水産加工会社等への就職が約1/3、地元企業への就職が約1/3となっています。卒業生は、県内外で養魚業や水産加工業、あるいは公務員など多様な分野で活躍しています。今年の卒業生も鳥取県や広島県の大学でさらに学んだり奄美大島で漁業に従事したりしています。魚など水生生物に興味関心がある人はぜひ水産科で学びませんか。

【フォトギャラリー】水産科の行事の様子です



カヌー川下り



平磯海岸磯調査



海洋調査